

山口県獣医師会会報

Monthly Report of the Yamaguchi
Veterinary Medical Association

第 759 号 令和 6 年 8 月

目次

○日本獣医師会第81回通常総会出席報告（会長理事）	1
○第60回（2024年度）山口県獣医学会のご案内	1
○令和6年度第1回小動物部会委員会開催のご報告（大黒屋勉部会長）	4
○令和6年度産業動物部会・獣医公衆衛生部会合同委員会開催報告（常務理事）	5
○新入会員紹介 はじめまして（豊浦支部 藤原優美先生）	6
○豊浦支部総会開催のご報告（豊浦支部 藤原優美先生）	6
○リレー随筆 我が家の猫について（県庁支部 木下友里恵先生）	7
○労働年齢人口および今後の採用に関連して（下関支部 原田秀明先生）	8
○タイの畜産関係施設を訪問して（2/2報）（岩柳支部 三好雅和先生）	9
○獣医学科学生の教育活動を支援する基金へのご寄附のお願い（山口大学共同獣医学部 度会雅久学部長）	12
○山口獣医学雑誌第51号への投稿について（常務理事）	13
○お知らせ 令和6年度産業動物臨床講習会（中国地区）の開催について	14
○事務局だより	14
○愛玩動物看護師生涯教育講座ポスター	15

日本獣医師会第81回通常総会出席報告

会長理事 田中尚秋

去る令和6年6月26日（水）、明治記念館（東京都港区元赤坂）において公益社団法人日本獣医師会の第81回通常総会が開催され議決権行使者として出席しましたので、その状況を報告します。

近年、コロナ禍が一段落した後は、東京出張の際でも交通機関やコンビニ等でマスクをしている人はほとんど見かけなかったのですが、今回は出会う方

の四分の一くらいはマスク着用でした。コロナ感染者数が増加しているとの報道がなされていたのですが、まさに実感した思いです。

総会に係る詳細については、日本獣医師会雑誌に掲載されると思いますので、ここでは概略の説明とさせていただきますが、今回も行政機関の高位高官・職員や国会議員等多くのご来賓をお迎えし、活

お知らせ

第60回（2024年度）山口県獣医学会のご案内

下記のとおり開催します。皆様の参加をお待ちしています。

- | | |
|----------------------------|----------------------|
| 1 会場 防長苑（山口市熊野町） | 3 参加費 |
| 2 開催日 令和6年8月25日（日） | 本会会員・学生： 無料 |
| 9：30～ 開会・挨拶 | 愛玩動物看護師等： 千円 |
| 9：40～12：30 発表（産業動物・獣医公衆衛生） | 上記以外の者：3千円 |
| 12：30～13：00 学会運営委員会（産・公） | 4 その他 |
| 13：00～16：50 発表（小動物） | (1) 防長苑の駐車場を利用してください |
| 16：50～17：20 学会運営委員会（小） | (2) 昼食の斡旋は行いません。 |
| | (当日は防長苑の食堂は休業) |

気のある総会となりました。

まず始めに出席者全員による日本獣医師会・獣医師倫理綱領「獣医師の誓い—95年宣言」の斉唱のあと、藏内勇夫会長から平素の協力に対する謝意、来賓ご出席に対する謝辞等を述べられた後、能登半島地震に対する対応、ワンヘルスの推進、世界獣医師会の次期会長に決定し2026年の第41回世界獣医師会大会を日本において開催することの紹介等がありました。また、マイクロチップ（MC）装着・登録問題については、データの一元化を目指して関係機関等と協議を重ねたこと、豚熱対策、獣医師の専門獣医師制度の検討等について言及され、公益社団法人としての社会的役割を果たして行くとの強い決意を示されました。さらに、令和5年度の決算としては支出が超過し、赤字運営が続いているので、実施事業の見直し、事務局の在り方等を図り組織運営に係る見直し、収支健全化を目指して努力していく等の挨拶がありました。

続いて、獣医師会職員永年勤続表彰（40年勤続表彰1名、20年勤続表彰3名）があり、代表として20年勤続表彰の長野晋太郎様（日本獣医師会）へ藏内会長から賞状の授与等がありました。

次に農林水産省消費安全局長を始めとして多くのご来賓の挨拶があり、来賓ご退席のあと議案審議に入りました。藏内会長が仮議長となり、議長として（公社）島根県獣医師会の安食政幸会長、副議長として（公社）福島県獣医師会の浦山良雄会長が指名され、両議長から簡潔に就任の挨拶があり、第1号議案から審議が開始されました（議長から事務局あて説明が求められ、すべて主として境 政人専務理事が対応）。

第1号議案 令和5年度事業報告の件（報告事項）

- ・世界獣医師会（WVA）、アジア獣医師会連合（FAVA）関連会議等獣医師対策等国内外連携交流推進事業関係の事務報告
- ・会員及び賛助会員の異動状況（令和5年度構成獣医師数23,715人、対前年度比466人減）
- ・緊急災害時対応

令和6年能登半島地震動物救護活動等に係る支援について、3月末までに合計42,956,680円の支援金が集まったこと、動物用医薬品、ペットフードや備品等の物資手配、岩手大学の移動診療車を現地本部

に配送手配、被災動物診療支援のための診療券納品等の対応を行った、等

- ・豚熱への対応
- ・各種機関・団体・国会議員等へ行った獣医療政策提言等の要請活動内容
- ・個別事業報告（部会委員会等の運営事業について、地区獣医師大会における決議要望事項及びそれに対する対応について。等）
- ・狂犬病等共通感染症対策
- ・動物福祉適正管理施策支援事業

改正動物愛護管理法施行規則が施行（6月1日）され、保護された疾病動物の獣医師によるMC情報の検索が可能となったため、システム改修（法定登録の情報も一緒に検索できるようになった）、手数料の見直し等が行われた

- ・年次大会、各地区学会の開催状況、講習会・研修会の実施状況等
- ・その他、収益事業関係共済事業の運営状況、等の説明に対し、議長が質疑等を求めたが特に意見・異議等はなかった

第2号議案 令和5年度 決算の件（承認事項）

計算書類（貸借対照表、同内訳表、正味財産増減計算書等）により決算状況説明

経常収益計1,071,411,129円、経常費用計1,285,317,115円、当期経常増減額△213,905,986円で、正味財産期末残高2,139,995,383円となったこと、等

柴山隆史監事が監査報告、意見等陳述

議長が質疑、意見等を求めたが特になく、挙手により全会一致で承認された。

第3号議案 令和6年度 事業計画の件（報告事項）

実施方針、事業別の対応については公益目的事業と収益事業に分けて詳しく説明があった。

今期の事業推進特別委員会の下に設置された検討委員会（①ワンヘルス推進、②薬剤耐性（AMR）対策、③MC普及推進）において、関連する職域別部会と連携して検討を行い、事業運営、要請活動等の施策に反映させる。

個別の重要課題に対する事業運営について

（1）部会委員会等運営事業

- ・ワンヘルスの推進に関する対応
- ・AMR対策の推進に関する対応

- ・MCの普及啓発に関する対応
- ・豚熱等への対応
- ・勤務獣医師の処遇改善等に関する対応
- ・女性獣医師の活躍推進に関する対応
- ・組織の強化への対応 等
- (2) 獣医師・獣医療倫理向上対策事業
- (3) 災害対策事業
- (4) 動物福祉適正管理施策支援事業
- (5) 獣医事対策等普及啓発・助言相談・情報提供対応事業
- (6) 獣医事対策等国内外連携交流推進事業
- (7) 獣医事対策等調査研究事業
- (8) 獣医学術学会事業
- (9) 獣医学術振興・人材育成事業
- (10) 獣医学術振興調査研究事業 等

令和7年1月24日(金)～26日(日)、仙台国際センターで開催される第42回日本獣医師会獣医学術学会年次大会並びに2024年10月24日(木)～27日(日)、韓国テジョンで開催されるFAVA大会2024の紹介、参加呼びかけがあった。

以上の説明に対し、議長が質疑、意見等を求めたが特に異議等はなかった。

第4号議案 令和6年度 予算の件(報告事項)

令和6年度収支予算書、並びに資金調達及び設備投資の見込みに関する書類について、会員減少による会費収入の減、MC登録に係る費用が値上げされたことにより登録事業収益の増収が見込まれること、

等の説明があった。

議長が質疑、意見等を求めたところ、京都市獣医師会からももう少し地方会の意見を聴いてほしい等の意見があった。

議長が、ほかに質疑、意見等を求めたが特に異議等はなかった。

第5号議案 令和6年度 会費及び賛助会費の件(承認事項)

例年どおり(変更なし)で、1会員(1地方獣医師会)当り190,000円で、令和6年3月31日現在における会員構成獣医師数に6,000円を乗じて得られた額を加算した額とされた。

議長が質疑、意見等を求めたが特になく、挙手により全会一致で承認された。

第6号議案 役員選任の件(承認事項)

今回は境専務理事の辞任に伴う新専務理事の選任と新たに1名の特任理事の選任が求められるものであり、途中、第3回理事会をはさんで、新役員候補者の紹介があった。各々一人ずつ賛否が諮られ、全員が承認された。なお、任期は残り1年(次回の通常総会まで)である。

議長がほかに提議等ないか求めたが、特になかったため議事終了とされた。

最後に、今回勇退される境 政人専務理事に花束贈呈があり、後任の伏見啓二氏(元農林水産省大臣官房審議官)の挨拶がありました。



令和6年度第1回小動物部会委員会開催のご報告

小動物部会長 岩柳支部 大黒屋 勉
(みさお動物病院)

2024年7月4日(木)に開催された、令和6年度第1回小動物部会委員会についてご報告させていただきます。本委員会には6月に新たに選任された部会委員10名の先生方にご参加頂きました。

会議の冒頭、新部会長の選任が行われ、前期に引き続き私が部会長を務めさせて頂く事となりました。任期の2年間、気持ちも新に小動物部会の運営に微力ながら貢献したいと存じます。

本委員会では、「令和6年度本会事業計画について」「山口県獣医学会について」「山口県獣医学雑誌について」「狂犬病予防注射の推進について」「講習会の開催について」「山口大学共同獣医学部との連携について」その他を含め、以上の各議題について協議を行いました。

本年度の集合注射頭数は県内合計22,977頭で、昨年より1,316頭の減少となりました。注射頭数の減少に関して、委員の先生から県内における犬の死亡届数についてご質問がありました。注射頭数の減少対策を考える上で、現状を正しく把握することは狂犬病予防接種の推進には欠かせないことと存じます。重要な課題ですので、今後も継続して議論し対策し

てゆく必要があると存じます。

また、本年度も小動物講習会は2回の開催を予定しています。第1回は小動物神経病学の分野で著名な日本獣医生命科学大学の長谷川大輔先生をお招きすることが決まりました。今回は中国地区獣医師会連合会の主催となり、12月1日に山口グランドホテルにて開催予定です。詳細は獣医師会ホームページ等で周知して参りますので、ご確認をお願い致します。最新の情報も含め、幅広い内容となる予定ですので、是非多くの会員の皆様にご参加賜りたいと存じます。

この他、山口大学共同獣医学部との連携については、SFTS検査の依頼先が山口大学のみとなることを再度確認しました。県内ではSFTSの症例が変わらず報告されておりますが、山口県環境保健センターの研究事業が終了し、検査の受け入れがなくなった事を考えると、無償での検査を継続して頂けることは非常にありがたい事と存じます。

会員の皆様におかれましては今後とも小動物部会の活動にご意見を賜り、部会の運営にご協力頂きます様、重ねて宜しくお願い申し上げます。

小動物部会委員名簿

任期：令和6年6月1日～令和8年5月31日

氏名	所属	支部	氏名	所属	支部
◎大黒屋 勉	みさお動物病院	岩柳	市岡 貴典	レオ・アニマルクリニック	長北
二條久保 静香	光アニマルケアクリニック	熊毛	工藤 洋幸	くどう動物病院	豊浦
三谷 藍	三谷獣医科病院	徳山	高橋 学	たかはしペットクリニック	下関
新田 直正	ファミリー動物病院	防府	岡田 明子	山口県生活衛生課	県庁
原田 康隆	あさひ動物病院	山口	谷 健二	山口大学共同獣医学部	山大
網本 宏和	アミカペットクリニック	宇部			

※支部順 ◎は部会長



令和6年度産業動物部会・獣医公衆衛生部会合同委員開催報告

常務理事 酒 井 理

令和6年7月12日(金)、山口市小郡地域交流センターにおいて、産業動物部会・獣医公衆衛生部会合同委員会が開催されました。

委員の任期満了に伴い、新たに任命された委員(任期:令和6年6月1日～令和8年5月31日)による初めての会合で、部会長の選任や今年度の事業計画等について協議していただきました。

委員の互選により、産業動物部会会長に豊浦支部の

原田 恒委員、獣医公衆衛生部会に徳山支部の殿河内英雄委員が選任されました。

また、獣医学術・獣医療技術の向上普及、人材育成をめざして、両部会とも公開講座として11月に講習会を開催することになりました。講演内容等が決まり次第、本会会報に掲載案内を掲載します。

今年度は、次の委員にそれぞれの部会の運営を行っていただきます。よろしくお祈りします。

産業動物部会委員名簿

任期：令和6年6月1日～令和8年5月31日

氏名	所属	支部
柿原 新	柳井農林水産事務所畜産部	岩柳
齋藤 陽之	農林総合技術センター畜産技術部	山口
谷口 雅康	山口大学共同獣医学部	山大
西本 孝志	山口農林水産事務所畜産部	山口
◎原田 恒	下関農林事務所畜産部	豊浦
村上 明美	北部地区家畜診療所	山口

獣医公衆衛生部会委員名簿

任期：令和6年6月1日～令和8年5月31日

氏名	所属	支部
坂本 聡	山口県生活衛生課	県庁
◎殿河内 英雄	周南健康福祉センター	徳山
古川 勝也	長門健康福祉センター	長北
柳谷 泰夫	山口健康福祉センター防府保健部	防府
山 縣 宏	防府看護専門学校	山口
度会 雅久	山口大学共同獣医学部	山大

※五十音順 ◎は部会長



講習会開催計画 (案)

部門	日時	会場	講師	演題
産業動物	11月10日(日) 13:30～15:30	防長苑 2階 孔雀	山口大学共同獣医学部 教授 高木光博先生	飼料のカビ毒について(仮題)
獣医公衆衛生	11月23日(土) 13:30～15:30	防長苑 2階 孔雀	山口大学共同獣医学部 助教 牛根奈々先生	法獣医学と動物福祉学の紹介 ～人・動物・環境の健康を守る～

新入会員紹介

はじめまして



はじめまして。この度山口県獣医師会に入会させていただきました藤原優美と申します。今年の4月から山口県職員として豊田町の下関農林事務所（西部家畜保健衛生所）に勤務しています。実は昨年の大学卒業時に少しでも会報に挨拶を書かせていただいたので正確には二度目ましてとなります。

私は宇部市で生まれ、税理士の父、元看護師で専業主婦の母という獣医とは縁もゆかりもない家の25歳です。朝5時に起床し今は亡き愛犬とお散歩してから登校し、放課後は昆虫採集しまくり家で飼育ケース並べまくりまた愛犬と遠くまでお散歩し夜はよさこいを踊りまくりの忙しい？小学生時代を経て、その反動かほぼ幽霊部員で放課後友達と遊び惚けた中学生時代を過ごしました。宇部高校理数科に進学し、生き物が好き（すぎた）のでレンジャーを目指すか迷いに迷った結果、獣医を目指そうと舵を切り、山口大学に入学しました。大動物臨床学研究室に所属し佐々木先生と田浦先生と馬たちに非常にお世話に

豊浦支部 藤原優美

（下関農林事務所畜産部）

なりました。在学中に研修で訪れた際の獣医師と授精師に憧れ、卒業後はふくおか県酪農業協同組合に就職し、主に乳用牛、たまに肉用牛、ごくまれに馬の診療をしておりました。家の事情もあり1年も経たず辞職した昨年度は、実家に戻り朝起きて愛犬と散歩、午後からは少し離れた公園で散歩、という最高な毎日を過ごしておりましたが、3月に愛犬は15歳7か月で永眠し、お世話になったことのは動物病院の羽迫先生をはじめスタッフの方々には大変感謝しております。そんな楽しい思い出と悲しい思い出の詰まった無職期間を経て今に至ります。

現在の勤務先である豊田町にはホテルの里ミュージアムという何時間いても飽きない博物館があります。今まで何度も訪れたのですが観察会が特に楽しく、ヒルの観察会では自分の手をヒルの餌にして捕獲し、顕微鏡で見ながら解説をじっくり聞くことができ非常に面白かったです。通勤に1時間かかりますが、様々な野鳥を見ることができず、自然に囲まれながらの職場で良かったと思います。みなさま、これからもよろしくお願いたします。

豊浦支部総会開催のご報告

豊浦支部 藤原優美

（下関農林事務所畜産部）

6月28日（金）にサングリーン菊川にて開催された令和6年度豊浦支部総会ならびに懇親会についてご報告させていただきます。当日は会員24名中17名の出席と、来賓として県獣医師会から田中尚秋会長にご臨席をいただきました。

はじめに水藤創支部長のご挨拶で開会となりました。続いて、田中会長よりご挨拶をいただき、昨今の日本獣医師会や世界獣医師会の情勢、県獣医師会の新会館への引っ越しやマイクロチップなどについてご紹介いただきました。

続けて、議長に選任された古澤三千雄先生の進行のもと、各議案について採決が執り行われました。第1号議案として令和5年度事業報告および収支決算報告、第2号議案として令和6年度事業計画および収支予算（案）が採択されました。本年度は、香川航輝先生（NOSAI山口西部地区家畜診療所）、山田春花先生（下関農林事務所畜産部）、私の3人が新規入会いたしました。

総会後には懇親会が行われ、総会・懇親会ともに対面開催は5年ぶりとのことで、素敵な料理とともに近況報告等に花を咲かせており、非常に賑やかで有意義な会となりました。

これからも豊浦支部獣医師会の活動に積極的に参加していきたいと思っております。豊浦支部のみなさま、今後ともよろしくお願いたします。



リレー随筆

我が家の猫について

県庁支部 木下 友里恵
(環境保健センター)

これまで大変お世話になっている大先輩、浅沼康之先生からリレー随筆のバトンをいただいたので少々書いています。県環境保健センター環境科学部の木下です。今は獣医師免許が必要ない業務を行っていますが、山口県の自然や生物と関わることができて幸せです。

今回は自分の飼い猫についてだらだらと書こうと思います。

今、家には2匹の猫がいます。主に15歳の雌猫について書こうと思います。

この猫は、私が獣医師になりたての頃、千葉で臨床をしていたときに道端で倒れているところを保護されました。保護されたとき、瞳孔は開き、開口呼吸をしていました。左肺は虚脱し、左の大腿骨は骨折していました。食欲も全くなき、いつ亡くなってしまうだろうかと思って世話をしていましたが、元気になる飼い猫になって15年経ちました。

山口県に戻り、県に就職し臨床はやめてしまったので、これまで山口県内の色々な動物病院にお世話になっています。うちの「るん」を診察して下さった先生方、その節は本当にありがとうございました。

これまで特に大きな病気をしてこなかったうちの猫ですが、昨年4月に右後肢第一趾の爪と肉球の間に8mm程度の腫瘍ができました。跛行はありませんでしたが、腫瘍の表面が出血していたのと、拡大傾向があったことから腫瘍の可能性も考え、第一趾ごと切除していただきました。とてもきれいに手術していただき、傷が開くこともまったくなく、猫も気にすることもなく今では手術の跡がわからなくなっています。

摘出した腫瘍を病理検査に出したところ、「骨形成を伴う巨細胞性肉芽腫」との診断をいただきました。猫の爪床部に好発する非腫瘍性の疾患とのことでした。この疾患について、全く知識がなかったので、少し調べてみました。

巨細胞性肉芽腫は、線維芽細胞による線維性の間質に破骨細胞様の多核巨細胞が多数存在する所見を特徴とする炎症反応だそうです。反応性の類骨もしくは骨形成を認めることが多く、人においては局所の外傷及び出血に対する修復反応や慢性炎症による局所の微小出血が反応性増殖を促すとも考えられているそうです。猫での報告はなかなか検索しても見つかりませんが、2017年の報告では局所再発はする可能性があるとのことでしたので、今後も用心しようと思います。久しぶりに病理の勉強をするととても興味深く、アサリを数えるのもいいけど、やっぱり仕事で病理がしたいな～と思いました。

猫は15歳過ぎて、動きがゆっくりになり、本当におばあちゃんになったなあと常々思います。またなにかしらの病気になって先生方にもお世話になるかと思いますがどうぞよろしく願いいたします。

最後にもう1匹の猫についてですが、元々野良猫で、2歳頃から飼い始めたのですが、先月1カ月間放浪しまして、つい最近やっと捕獲できました。

今回は、公私ともにお世話になっている松清御夫妻の松清裕樹先生をお願いします。



労働年齢人口および今後の採用に関連して

下関支部 原 田 秀 明

(なつ動物病院)

先日、家族で回転寿司チェーンに行ってきました。チェーン寿司、いいですね。寿司が得意でなくてもラーメンや唐揚げ、サイドメニュー、デザートまで充実しており、かつ自分でたくさん選べる方がいいですね。我が家の子供が行きたいNo.1です。

はい、分かります。皆さんがおっしゃりたいこと、ワタシ、ワカリマス。冒頭からお堅い表題と全く関係無いじゃないかと、そういうことですよね。

話はこれからです。行きつけのスシ〇ーは先日、店内改装を行い、回転寿司ではなくなっていました！今まではよくあるレーンに乗ってスシがぐるぐる回っており、それを取ってもよし、別個に注文するとテーブル毎に決められた色の皿にのった商品をとる、取り損ねると無情にも流れていく…デザートなどスシ以外のモノの多くは店員さんが別途テーブルまで持ってきてくださる、そんなシステムでした。

それが改装後は、スシが回らなくなりました。全品注文制で、レーンに乗って運ばれてくるのですが、テーブルに着くと勝手にレーンが動いて席の方に運ばれるんですよ。列車の方向切替をイメージしてもらったら分かりやすいでしょうか？当方の語彙力ではこのあたりが限界ですが、理解してもらえたとして話を進めましょう。レーンも奥まで行ったら全席配り終わるので、それで終わりでした。（横回転ではなく、縦回転のレーンになってました。）

こうすることで・取り損ねがなくなり確実に席に運ばれる・各テーブル色のお皿に載せる必要が無い・専用のお皿に載せることで今までは個別に店員さんが配達していたデザートなどもそのまま席に運

ばれる（一部商品は店員さんが運びます）といった変化を見受けられました。

新型コロナの影響もあって、回っているお寿司に手を出しにくい、かつよくSNSで話題になるような衛生管理の問題に対してだと思えます。加えておそらく今後（すでに？）採用が難しくなりかつ高騰するだろう人件費も視野に入れて今回思い切った店内改装を行ったのかなと思考しております。

このシステムをみて、8割はお寿司、美味しいなあ、家族が喜んでくれて良かったなあと考えていたのですが、ふと最近みた記事を思い出しました。おぼろげですが、ざっくり日本の人口1億2000万人、20歳以上に限ると1億人。（20歳未満が2000万人しかいないというのも驚きですね。）50歳以上が5600万人。実に20歳以上の内56%を占める。40歳以上にするると7400万人74%を占める、20代30代は併せて26%しかいない、といった内容だったと思えます。

私がセンター試験受験時の20年前は（今は別の呼び方？）も100万人受験とか、同学年が140万人とかだった気がします。現在は年間出生数が70万人ぐらいでしょうか。

こういった背景からか高卒採用も増え、その待遇もあがっているという記事も見かけました。

我々獣医業界がどうなっていくのかは私には分かりませんが、少子高齢化、労働生産年齢人口の減少は現時点で止めようがないです。

当院では引き続き業務効率化、待遇の改善に努めて労働者も患者さんも（出来れば院長も）満足できる病院運営を目指して行きたいと思えます。

タイの畜産関係施設を訪問して（2／2報）

岩柳支部 三好雅和

7月会報の1／2報からの続きです。チェンマイ大学獣医学部の施設等を見学後、獣医学部の先生方の御案内で農場を視察しました。視察先の地域では口蹄疫は発生していませんが、ワクチンを定期的に接種していました。

【乳用牛】

2農場を視察しました。1農場は個人経営で130頭の乳用牛が飼養されていました（写真1）。ホルスタイン種ですが、いずれも日本で見る牛よりも小ぶりであり、乳量を聞くと15kg／頭・日でした。品種名は明確に聞き取れませんでした。タイで改良された耐暑性に優れたトロピカルホルスタイン種ではないかと思いました。同行してくれた大学スタッフがスマホで検定成績を見せてくれましたが、分娩間隔は14か月であり良好な成績でした。暑熱が厳しい地域ですが、牛舎の屋根は高く環境に配慮されており、品種的にも産乳量が低めであることが良好な繁殖成績につながっているのかもしれない。人工授精は農家が行っていますが、獣医師が実施する場合もあるようでした。なお、受精卵移植は実施していない、とのことでした。給与されている粗飼料は稲わら＋食用トウモロコシの残渣（葉、茎、実の芯）＋購入乾草でしたが、実の芯を食わずに残す、とぼやいていました。一方、トウモロコシの残渣がバイオ燃料に使用されるようになり牛に回ってくるものが少なくなってきた、とも話していました。口蹄疫のワクチン接種は1頭当たり年4回実施していました。また、年1回の定期検査（ヨーネ病、ブルセラ病、結核病）が実施されており、もし陽性が出た場合は補償制度がないので「自主淘汰」との説明がありました。



（写真1）個人経営の乳用牛農場。左から大学スタッフ（若い獣医師）、経営主、大学スタッフ（Assistant Professor）、筆者、三澤博士。

視察したもう1か所は国の農業教育施設内の農場（HUAI HONG KHRAI ROYAL DEVELOPMENT STUDY CENTER、Livestock Farm）です。乳用牛の関連施設は日本・タイの共同プロジェクトで建設されています（写真2、3）。飼養されている乳用牛は40頭、品種はトロピカルホルスタイン種でした。乳量や粗飼料の状況は先の農場と同様でした。口蹄疫のワクチンが1頭あたり年3回、ランピースキン病のワクチンが年1回実施されていました。牛舎にはバンカーサイロ、トレンチサイロが併設されており、ORIONが建設に関係しているからか何となく日本的な感じがする施設でした。

また、「農家の収入増を目的とした山羊乳を生産するプロジェクト」のため山羊の繁殖も取り組まれています（写真4）。放牧していることもあり、捻転胃虫などの消化管内線虫の対策が重要と話していました。



（写真2）農業教育施設 HUAI HONG KHRAI ROYAL DEVELOPMENT STUDY CENTERの牛舎の入口にある看板。



（写真3）牛舎内。トウモロコシ残渣のサイレージ。



(写真4) 山羊牧場。畜舎は高床式。山羊は夜になると2階でお休み（野生動物対策）。



(写真5) 繁殖牛農場のゼブ牛。

【肉用牛】

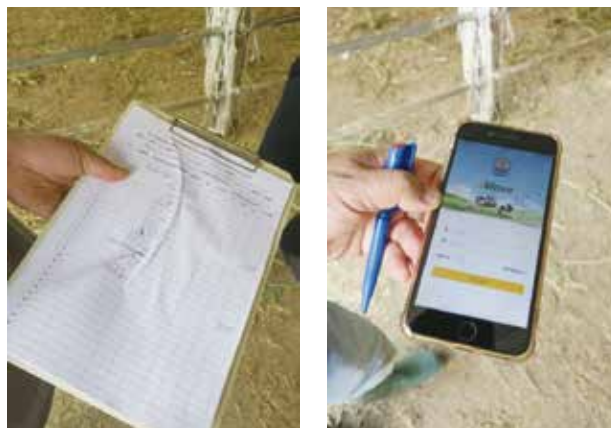
2農場を視察しました。1農場は個人の繁殖経営でゼブ種の繁殖牛18頭を飼養していました（写真5～7）。たまたまVRDC（Veterinary Research and Development Center）の獣医師が採血のため来場しており、現地の様々な情報を聞くことができました。当農場の繁殖はすべて人工授精であり、パラベテリナリー（獣医師補）が対応していました。妊娠鑑定も特別なことがない限りパラベテリナリーが直腸検査で実施する、とのことでした。子牛は6か月齢前後で出荷しますが、雄子牛は去勢しないで出荷していました。耳標装着は出荷前に行い、VRDCがデータベースを管理しワクチン接種や移動などの記録も管理していました。

また、口蹄疫の基本的なワクチンプログラムは肉用牛、山羊、水牛は2回／頭・年、乳用牛：3回／頭・年、とのことでした。先に視察した乳用牛の1農場は4回でしたが、1回は任意の追加接種と考えられました。もし口蹄疫が発生した場合の対応は、「発生農場の半径3km以内は移動禁止（30日）＋ワクチネーション、半径5km以内は搬出制限＋ワクチネーション」というものでした。患畜については淘汰となるようですが、日本のような法令殺・補償の仕組みがないような話でした。

なお、当農場では口蹄疫のワクチン接種は1頭あたり年2回、ランピースキンのワクチン接種は年1回実施されていました。



(写真6) 現地の状況説明。左から筆者、VRDCの獣医師、大学スタッフ（Assistant Professor）。



(写真7) 採血時の記録野帳（耳標Noの記載あり）、スマートフォンによる移動情報の確認。

視察したもう1か所は観光農園内の繁殖牛農場でした(写真8、9)。10ha以上もある広い農園内にドリアンやコーヒーの畑、レストラン、宿泊施設、肥育牛農場もあり、「地域の一大観光農園」といった感じでした。繁殖牛65頭が飼養されており、ブラーマン種、シャロレー・ブラーマン交雑種、シャロレー・アンガス交雑種など様々な種類の牛がいました。繁殖は人工授精、受精卵移植で対応していましたが、凍結精液や凍結受精卵はアメリカからも輸入しており、経営者の改良に対する積極的な姿勢が垣間見えました。また、タイ国内でも黒毛和種の肉が販売されており、非常に高価なことから凍結精液や受精卵の入手(輸入)に興味をもっている様でしたが、大学スタッフに「和牛は不可」と口頭で通訳してもらい、念のために文字でも説明してもらいました。「そうなのか、残念!」という感じで理解されていました。



(写真8) 観光農園内にある繁殖牛農場。屋根は高く風通しが良好。



(写真9) 繁殖牛農場の牛舎内。ブラーマン種、シャロレー種、交雑種の繁殖牛たち。鼻環は装着されておらず、鼻中隔に開けられた穴に頬綱が直接通してあります。

【一連の視察を終えて】

短い期間でしたが、関係者の方々のおかげで興味深い知見を得ることができました。農場視察ではタイ語・英語・日本語の二重通訳のため、聞き間違いや不正確な部分があるかもしれませんが、机上の知識しかなかったものを具体的に理解することができ、大変参考になりました。

最終日、三澤博士からタイと日本で行われているSATREPSの「家畜生産と食品安全に関する新技術導入推進に係る共同研究」*の取り組み概要を直接説明していただきました。口蹄疫フリーを目指した共同研究に取り組みされており、「ポータブル式遺伝子増幅装置(ピコジーン)やLAMP法を応用した現地で検査可能な技術」や「ドロップレットデジタルPCRによる高感度な診断技術(牛舎などの環境中のウイルス遺伝子も検出可能であり効果的な防疫措置に応用可能)」などが検討されていました。また、タイでは2021年4月にランピースキン病が侵入して、当初かなりの頭数が死亡しています。成書や過去の報告では「死亡率は低い」といった記載がありますが、タイでは侵入当初の1年間で5,874頭死亡という報告があり、実数ベースで見ると農場の大きな脅威であったと考えられました。また、発育遅延や乳量減少など経済的な被害が相当なものであったことも推察されます。その後はワクチン接種が推進され被害はかなり抑えられています。一方、現在タイ国内に拡散しているウイルスは「野外株とワクチン株のリコンビナント株」であることが判明しており新たな診断技術が必要となっている、との情報もありました。そのほか食品衛生関係の研究にも取り組まれており、共同研究の展開が期待されます。なお今までの成果は以下のホームページ*に掲載されていますので、興味がある方は是非ご覧になってください。

*参考

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/cadic/satreps/>
https://www.jst.go.jp/global/kadai/r0108_thailand.html

獣医学科学生の教育活動を支援する基金へのご寄附のお願い

山口大学共同獣医学部長 度 会 雅 久

山口大学獣医学科は、2024（令和6）年をもちまして山口高等獣医学校の設置から創立80周年の記念すべき年を迎えます。創立80周年記念事業として、将来を担う獣医学科学生の教育活動を支援するための基金を創設することにより、次世代の人材育成への取組みを実現し、さらなる飛躍をはかりたいと考えております。この趣旨にご賛同いただき、基金へのご寄附を何卒よろしくお願い申し上げます。

学生教育研究活動支援

国際水準の獣医師を養成するため、外部連携機関の協力のもと様々なハンズオン実習を行なっています（写真：食肉衛生検査学実習）。現在、外部機関での実習の一部は、学生が自己負担（宿泊費/交通費）で参加しています。今後も学生が実習できる連携機関の充実を図るとともに、金銭負担を軽減して安心して実習できる環境をつくり、将来を担う優秀な獣医師を育成するためにご支援下さい。



国際交流推進支援

獣医学教育の発展とグローバルに活躍する獣医師を養成するため、様々な国の獣医学系大学と交流を行なっています。その一つとして、ケニア・ナイロビ大学との交流活動は学生にとってよい刺激になっています（写真）。短期・長期の海外留学等、学生の国際的な活動をご支援下さい。



<寄附の申込み方法について>

1口 5,000円（何口でも可）

以下の獣医学科創立80周年記念事業ホームページの「寄附について」に募金方法等の情報が掲載されております。

<https://www.yamaguchi-ac.jp/vet/80th/contribution.html>



<ご寄附への顕彰>

ご寄附をいただいた個人及び法人の方々のご支援に感謝し、以下の顕彰をご用意しております。

※ご芳名録（匿名希望者を除く）を獣医学科創立80周年記念事業ホームページに掲載させていただくほか、獣医学科の歴史に末永く留めさせていただきます。

※2口（10,000円）以上のご寄附を頂いた方々には、後日、『山口大学獣医学科80周年記念冊子』をお送りします。

個人からのご寄附

2口以上：80周年記念誌返礼、ホームページへのご芳名掲載、寄附者ご芳名の記念誌折り込みへの掲載

6口以上：上記に加えて銘板へご芳名を記載

100口以上：上記に加えて感謝状と令和7年度ホームカミングデーご招待

企業・団体からのご寄附（動物病院含む）

20口未満：ホームページへのご芳名掲載、寄附者ご芳名の記念誌折り込みへの掲載

20口以上：上記に加えホームページへのバナー掲載

100口以上：上記に加えて感謝状と令和7年度ホームカミングデーご招待

<問い合わせ先>

山口大学共同獣医学部 山口大学獣医学科創立80周年記念事業窓口

email：ve100@yamaguchi-u.ac.jp

ホームページ： <https://www.yamaguchi-u.ac.jp/vet/80th/index.html>

山口獣医学雑誌第51号への投稿について

常務理事 酒 井 理

山口獣医学雑誌は、山口県獣医学会の機関誌として、獣医学と関連領域のすべての問題について、原著、総説、短報、記録及び資料等を搭載して、年1回発刊されています。

第51号に掲載する論文を募集しています。次の投稿規程に沿って日頃の研究の成果を取りまとめていただき、令和6年11月末までに本会事務局あて提出して下さるようお願いします。

山口獣医学雑誌投稿規程

- 1 山口獣医学雑誌（以下、「雑誌」という。）に関する原稿の取り扱い、この規程による。
- 2 原稿は、Microsoft Word等のコンピューターソフトを用いて作成し、原稿（図表等を含む）の電子ファイルを学会事務局へ電子メールの添付書類にて提出する。電子メールで送信できない場合は、プリントアウトした原稿2部（図表等を含む）とそれらのファイルを保存したCD-ROM等を学会事務局あて送付する。
- 3 原稿は、編集委員会において審査し、原稿の採否及び掲載の順位は、編集委員会が決定する。
ただし、編集委員会は、内容に応じて専門家に原稿の審査を依頼することができる。また、審査の過程で著者への修正を求め、再審査を行うことがある。
- 4 審査の結果、採用と認められた原稿は、雑誌の印刷発刊後においても、原則として著者へ返却しない。
- 5 審査の結果、不採用と認められた原稿は、原則として、受付3か月以内に返却する。
ただし、この場合、不採用の理由を明らかにする義務を負わない。
- 6 原稿は、原則として、刷り上がり6ページ（1ページ約2,400字）以内とする。制限ページ数を超過した分およびカラー写真については、著者実費負担とすることがある。
ただし、編集委員会の依頼による総説論文の原稿は、この限りではない。
- 7 原稿は、表紙、和文・英文抄録、キーワード、文献、図表の説明等に分けて書く。
 - (1) 電子ファイルのフォーマット：A4版用紙に横書き、1行40字×30行（目安）、明朝体12ポイントで、フッター中央にページ番号を記載する。
 - (2) 表紙：原稿の種類、論文表題、著者名、所属施設ならびにこれらの英訳の順に記載する。下段に連絡著者の連絡先（氏名、住所、電話・FAX番号、電子メールアドレス）を明記する。
 - (3) 和文・英文抄録：抄録は和文、英文ともに刷り上がり1ページ以内とする。和文と英文の要約の後に、原著で5語以内、短報では3語以内のキーワードを記載する。
- 8 図表並びに写真は、まとめて原稿の最後につけ、論文中にそれらを置く位置を指定する。
- 9 引用文献は、本文に引用したものに限り、著者名、論文題名、雑誌名、巻（号）、始頁～終頁、西暦年を明記し、原則としてアルファベット順に配列し、番号をつけ、下記の様式で記載する。

例 雑 誌

和文： 5) 松本正弘・中村一夫：人および動物血液中の日本脳炎ウイルス中和抗体の分布と推移について。熱帯医学, 15(6)：272-285.1975.

英文： 18) Lawrence J. E. and Clark, D. H.: The Lysis of Leptospire by Antiserum. Amer. J. Trop. Med. Hyg., 24(2)：250-260.1975.

単行本

和文： 7) 山村雄一・石坂公成：免疫化学概論, 2版：15-18. 朝倉書店, 東京.1973.

英文： 15) Smith, H. A., Jones, T. C. and Hunt, R. D.: Veterinary Pathology. 4th ed. Lea & Febiger Pub., Philadelphia. U.S.A. 1972.

- 10 外国人名、地名などは原語のまま記述し、数字は算用数字、度量衡はメートル法による。
- 11 印刷の校正は編集委員が行う。ただし、初校は著者も行うものとし、この場合、原則として、内容の訂正は認めない。
- 12 別刷は、100部まで無償で贈呈する。それ以上の部数については、著者実費負担とする。必要部数については、初校（著者校正）のとき、原稿の右上端に朱書するものとする。
- 13 掲載論文の著作権及び電子的形態による利用も含めた包括的な著作権は、公益社団法人山口県獣医師会に帰属する。
- 14 この規程の改廃は、編集委員会において決定する。

附 則

- 1 この規程は、平成24年12月13日から施行する。
- 2 この規程は、平成31年3月19日から施行する。
- 3 この規程は、令和4年5月12日から施行する。

お知らせ

令和6年度産業動物臨床講習会(中国地区)の開催について

広島県獣医師会から次のとおり開催案内がありました。

受講を希望される会員は、8月15日(木)までに、メール又はFAXにより本会事務局に申し込んでください。

- 開催日時：令和6年9月4日(水) 13:00～16:00
- 開催場所：RCC文化センター 7階 703会議室(広島市南区橋本町5-11)
- 演 題：「牛伝染性リンパ腫～ここまで来た浄化対策～」
「広島市と畜場における牛伝染性リンパ腫の発生状況及び診断について」
- 講 師：国立大学法人 岩手大学農学部共同獣医学科 教授 村上賢二先生
広島市食肉衛生検査所 獣医師 西村崇志先生

お知らせ

今後の主な行事(予定)

- 8月1日 ・第2回学会運営委員会(小郡地域交流センター)
- 8月9日 ・中国地区獣医師会連合会臨時総会(松江市)
- 8月21日 ・阿武萩和牛共進会(萩市むつみ肉用牛集出荷施設)
- 8月24日 ・第9回山口県獣医師会館検討会議(小郡ふれあいセンター)
- 8月25日 ・山口県獣医学会(防長苑)
- 8月27日 ・美祢畜産共進会(美祢家畜管理所)
- 8月30日 ・長門大津畜産共進会
- 9月4日 ・中国地区産業動物臨床講習会(広島市)

事務局だより

- 7月4日 ・第1回小動物部会委員会(小郡地域交流センター)
- 7月4日 ・山口県公衆衛生学会(県総合保健会館)
- 7月12日 ・産業動物部会・獣医公衆衛生部会合同委員会(小郡地域交流センター)
- 7月19日 ・日本獣医師会事務事業推進会議(東京)
- 7月23日 ・会報編集委員会(仮事務所)
- 7月30日 ・山口県装蹄会理事会・総会(山口県農業共済組合)
- 4日・18日 事業推進会議

次回編集委員会 8月20日(火) 13:30～

山口県獣医師会会報 第759号 令和6年8月10日(毎月1回発行)

発行所 (公社)山口県獣医師会(〒754-0002 山口県山口市小郡下郷1080-3)

電話 (083) 972-1174 FAX (083) 972-1554

e-mail:yama-vet@abeam.ocn.ne.jp

http://www.yamaguchi-vet.or.jp

編集責任者 豊川 剛

発行責任者 田中 尚秋

印刷 コロニー印刷

一般財団法人 動物看護師統一認定機構 主催

愛玩動物看護師 生涯教育講座

愛玩動物看護師は、愛玩動物看護師法に基づく国家資格を有する獣医療補助者として、愛玩動物や飼養者のみならず社会に対して大きく貢献することが期待されています。本講座は、生涯にわたり知識と技能の研鑽を重ね、国家資格保有者としての資質を高め、愛玩動物看護師の役割をより一層社会へ還元していくことを目的としています。

講座内容

第1回講座 パネルディスカッション

テーマ▶ 国家資格「愛玩動物看護師」の誕生による
これからのチーム獣医療に向けて

内容▶ 「チーム獣医療における獣医師と愛玩動物看護師の連携について」や
「診療補助業務の実例と問題点の解決策」等について討論しています。



第2回講座 講義（診療の補助）

テーマ▶ 犬の採血（フィラリア検査）～基礎・練習から現場での活用～

内容▶ 採血業務を適切に行うための基礎知識や技術的な留意点及び
練習方法、その活用による効率的なフィラリア検査等の進め方について学べます。



第3回講座 講義（愛護適正飼養）

テーマ▶ 愛玩動物看護師が理解すべき犬の行動学の基礎、
特にクレートの効果と応用

内容▶ 獣医診療において重要な「犬の行動学の基礎」とともに
災害時等の様々な場面で有用な「クレートトレーニング」、
「排泄コントロールおよび社会化」等について学べます。



【申し込み専用ページ】



<申込方法>

右記の申し込み専用ページから新規登録（無料）を行い、ログインしてください。

<注意事項>

- ・本講座は、愛玩動物看護師国家試験及び予備試験の受験対策講座ではありません。
- ・本講座は、愛玩動物看護師法に基づく指定講習会ではありません。
- ・受講資格等はありません。
- ・第2回講座から有料（1講座2,000円/税込）となります。

<ご連絡先>

(一財)動物看護師統一認定機構
〒113-0033 東京都文京区本郷 5-23-13
タムラビル 8階
<https://www.ccrvn.jp/>

愛玩動物看護師
生涯教育講座専用 LINE→

